

6月定例会 一般質問要旨

2次元コードを読み取ると、議員それぞれの全ての一般質問の様子をご覧いただけます。



情報発信について



志友会 青木 雅浩

議員 新たなスタイルの定例記者会見のコンセプトや狙い、今後の展開について伺います。

企画部長 市長自らが説明を行い、トップセールスを行うことで発信力を高める狙いがあります。今月の記者会見から動画配信を予定していますが、今後は手話を取り入れた動画配信についても準備をしていきたいと考えています。

議員 エフエム太郎の番組「太田市長のほづみんトーク」について、再放送を含めて複数回聴取の機会があります。しかし、仕事や家事、育児などのさまざまな事情で聴きたくても聴けないこともあるため、市公式YouTubeチャンネルで番組のアーカイブ配信を行うことが有効かと考えますが、エフエム太郎とのさらなる連携強化の考え方や方向性について、市長の所見を伺います。

市長 告知動画を市公式Xで配信していますが、より多くの人に聴いてい

ただくためにも、議員から提案いただいた音声データのアーカイブ配信を実施していきたいと考えています。

議員 積極的な情報発信を引き続き期待しますが、情報発信の改善について、所見を伺います。

市長 多くの人に市政を知ってもらうため、既存のデジタルコンテンツを活用しながら、引き続きトップセールスを行い、しっかり情報発信していきたいと考えています。

■その他の質問 ・公共交通について



本市におけるAIの活用状況と課題、そして今後の展開について



志友会 長 正祐

議員 学校教育におけるAIの活用について、教育長の所見を伺います。

教育長 AIは人間の能力を補助し、拡張し、可能性を広げていく道具になりうると考えており、AIの利活用が子どもたちの学力向上や教職員の業務改善につながることを大きく期待しています。教育委員会としても積極的に研究に取り組んでいきたいと考えています。

議員 本市には多くの外国人市民が暮らしており、多文化共生の取り組みを進めていますが、きめ細やかな支援や的確な情報提供の充実を図るため、AI技術をどのように活用し、多言語対応による情報提供や相談体制の強化を図っていくのか、市長の所見を伺います。

市長 AIは双方向コミュニケーションにおいて有望なツールであり、多文化共生の充実をしっかりと図る上で有効な手段であるため、積極的に活用して

いきたいと考えています。

議員 本市のブランド力向上や関係人口拡大を図る上で、PR戦略は極めて重要と考えますが、生成AIの活用について、所見を伺います。

市長 市の魅力を発信するにあたり、生成AIで作成した動画を活用することで、より多くの情報を直感的に伝えることができると考えています。また、効率的なマーケティング分析が可能となり、本市のブランド力向上や関係人口の拡大に新たな可能性を広げるツールと感じていますので、活用について前向きに検討していきたいと考えています。



「ものづくりミュージアム構想」の検討について



志友会 高野 博善

議員 本市ならではの知的資源の掘り起こしやアイデンティティーを生かした観光産業の強化の必要性を強く感じますが、本市の観光事業の今後の取り組みについて伺います。

産業環境部長 本市を代表する祭りである尾島ねぶたまつりを継続するとともに、おおた魅力再発見バスツアーなどの事業を通し、交流人口の増加と新たなにぎわいの創出に努めていきたいと考えています。

議員 自動車づくりのまちとしてイメージアップする施設の設置やイベント開催もとても重要と考えますが、SUBARU運営のビジターセンターの見学について伺います。

産業環境部長 工場が休みになる土日などの見学は難しいですが、引き続き協力を仰ぎながら、ビジターセンターだけでなくSUBARUが持つ産業資産の掘り起こしに取り組んでいきたいと考えています。

議員 若者が本市のものづくりに

憧れ、就業を志す環境を整えることが、さらなる繁栄につながると考えますが、SUBARU北工場エリアの活用について、市長の所見を伺います。

市長 SUBARU北工場を含めた金山周辺を一大エリアとして、各々の資源を活用できるように、前向きに進めていきたいと考えています。

■その他の質問 ・物価高とトランプ関税に対応する経済支援策について ・「文化財保存活用地域計画」の認定を目指すことについて ・空き家対策の拡充について



高齢者や介護など社会福祉の取り組みについて



公明党 谷之木 勇作

議員 死亡に伴う公的な手続きについて、遺族の負担を軽減するため、市役所におくやみコーナーや窓口などの設置をすべきと考えますが、所見を伺います。

企画部長 死亡に伴う手続きが円滑に進むことは、市民と行政、双方にメリットがあります。おくやみコーナーの設置は令和6年9月に作成したおくやみハンドブックなどの利用と併せ、より効果的な手続きを可能とし、市民の負担を大幅に軽減できる取り組みですので、設置に向けて検討していきたいと考えています。

議員 市役所におくやみコーナーの設置を希望する市民の声が続いており、現在、県内でも多くの自治体でおくやみ窓口の設置が進んでいます。死亡や相続に関する手続きについては、慣れないことから必要書類の不備によって何度も繰り返す負担も少なくないため、遺族にとってはおくやみコーナーがあることで大きな安心感となり

ます。遺族の負担を軽減するためにも、一番最初に相談できる窓口などの設置をすべきと考えますが、市長の所見を伺います。

市長 手続きには高齢者が多く、^{はんぎつ}煩雑な手続きなどもあることは認識しています。遺族の負担を減らすためにも、おくやみコーナーは非常に有効な仕組みですので、設置を進めていきたいと考えています。

■その他の質問 ・地域活性化の取り組みについて ・災害対策について

